

度会町における

令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果・分析と今後の取組について

度会町教育委員会

令和3年12月

小学校第6学年及び中学校第3学年を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果概要について、度会町の児童生徒の学力の定着状況、学習状況、生活習慣等の分析結果や今後の取組を以下のとおりまとめました。

なお、「全国学力・学習状況調査」は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる目的で実施されています。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することが目的です。

しかしながら、調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面です。このことを今回の調査においても十分考慮し、今後の当町の教育の一層の充実を図ってまいります。

1. 調査の概要

(1) 調査日

令和3年5月27日

(2) 対象者

度会小学校6学年（69名）、度会中学校3学年（65名）で実施

(3) 調査科目

小学校：国語、算数

中学校：国語、数学

(4) 調査内容

①教科に関する調査

ア) 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

イ) 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

②生活習慣や学習環境等に関する調査

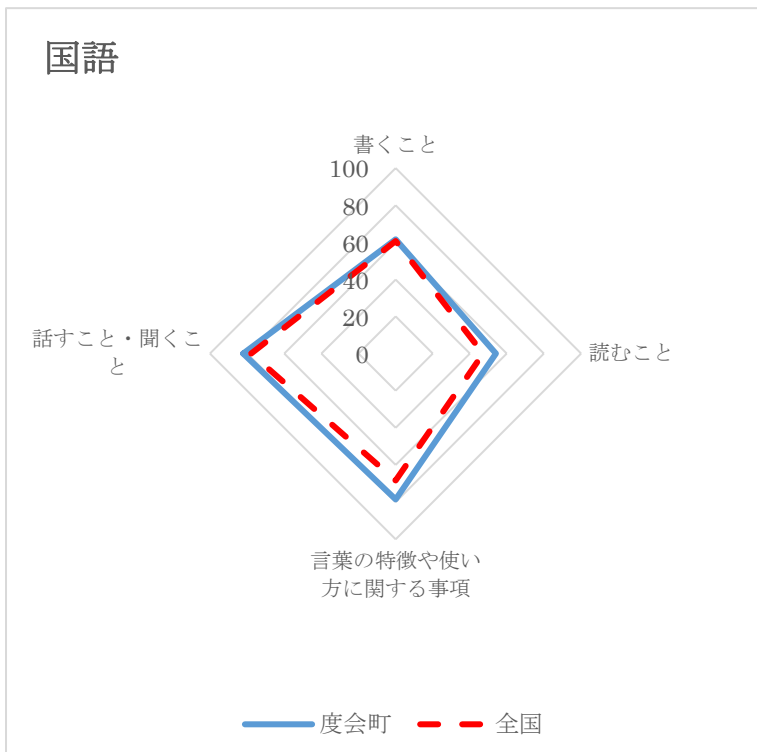
ア) 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査（児童・生徒質問紙）

イ) 学校における指導方法に関する取組や学校における人物・物的な教育条件の整備状況等に関する調査（学校質問紙）

2. 教科別概要

(1) 小学校国語

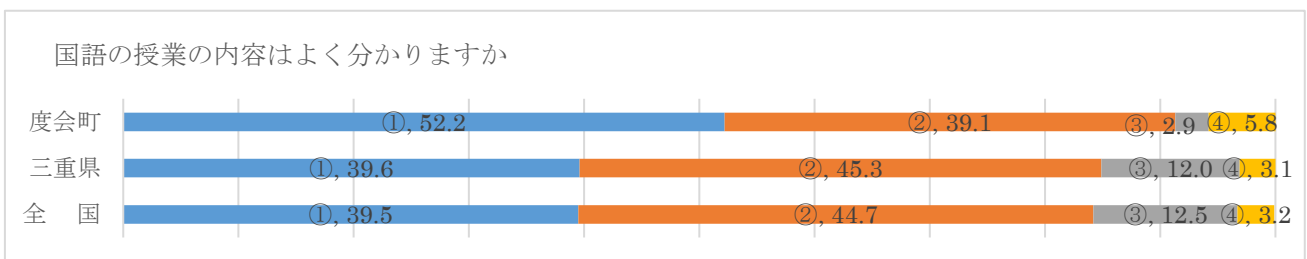
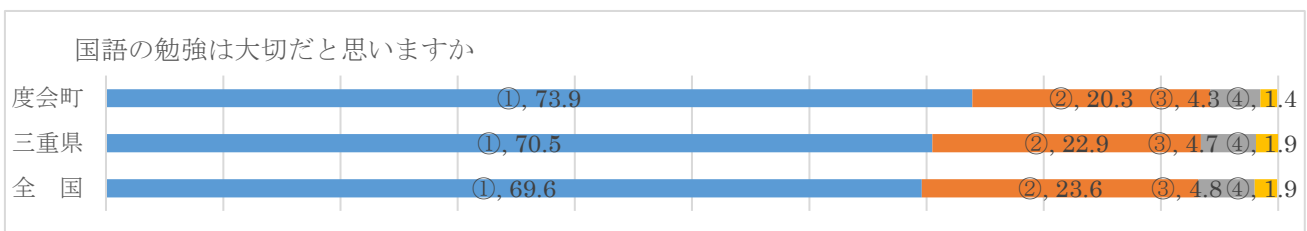
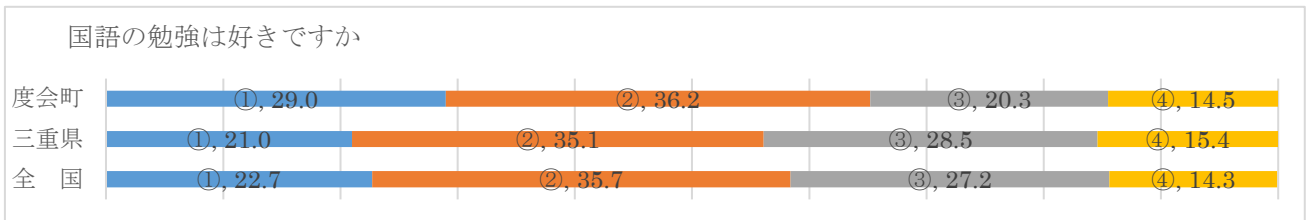
■領域別平均正答率の状況



■調査問題結果からみる傾向

- 目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える力がついています。
(町 87.0% 県 76.7% 全国 77.5%)
- 思考に関わる語句の使い方を理解し、語や文章の中で使う力がついています。
(町 89.9% 県 87.0% 全国 87.5%)
- 目的を意識して、中心となる語や文をみつけて要約する力に課題がみられます。
(町 34.8% 県 25.7% 全国 29.7%)

① 当てはまる ②どちらかといえば、当てはまる ③どちらかといえば、当てはまらない ④当てはまらない



■全体的傾向と課題

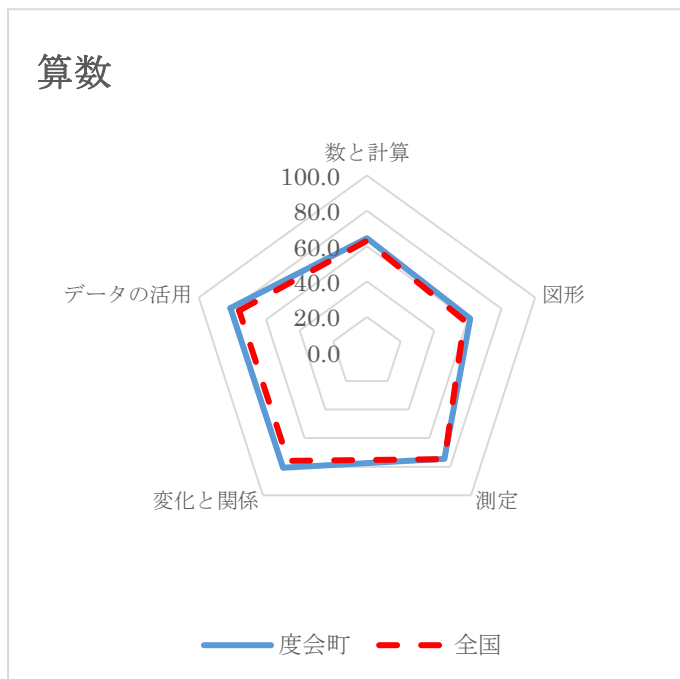
・「国語の勉強は好きですか」「国語の授業の内容はよく分かりますか」という問いに対し、①当て

はまる ②どちらかといえばあてはまる と回答した児童をあわせた割合が、三重県全国と比べて高くなっています。

- ・基礎的・基本的な「知識・技能」、「思考・判断・表現」とともに、概ね身につけています。
- ・文章を要約したり、自分の主張を明確に伝えるために構成を考えたりする力（書くこと 読むこと）については、更に伸ばしていく必要があります。

(2) 小学校算数

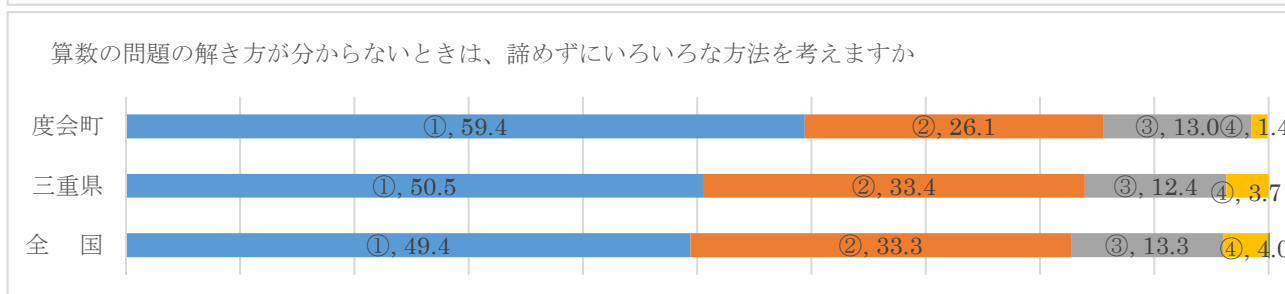
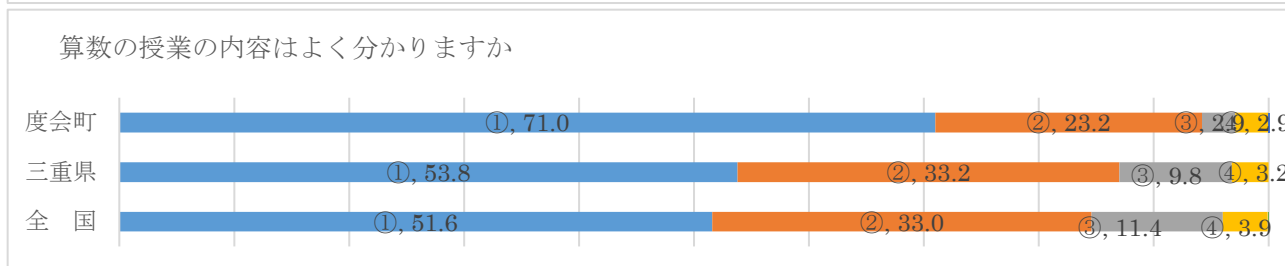
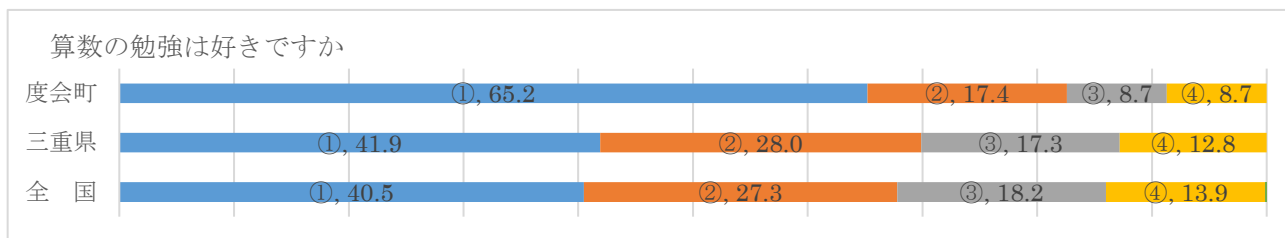
■領域別平均正答率の状況



■調査問題結果からみる傾向

- 速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察する力がついています。
(町 92.8% 県 87.2% 全国 86.7%)
- 複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素等に着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述する力に課題がみられます。
(町 49.3% 県 45.3% 全国 46.0%)
- データを2次元の表に分類整理する力がついています。
(町 81.2% 県 71.3% 全国 67.5%)

① 当てはまる ②どちらかといえば、当てはまる ③どちらかといえば、当てはまらない ④当てはまらない

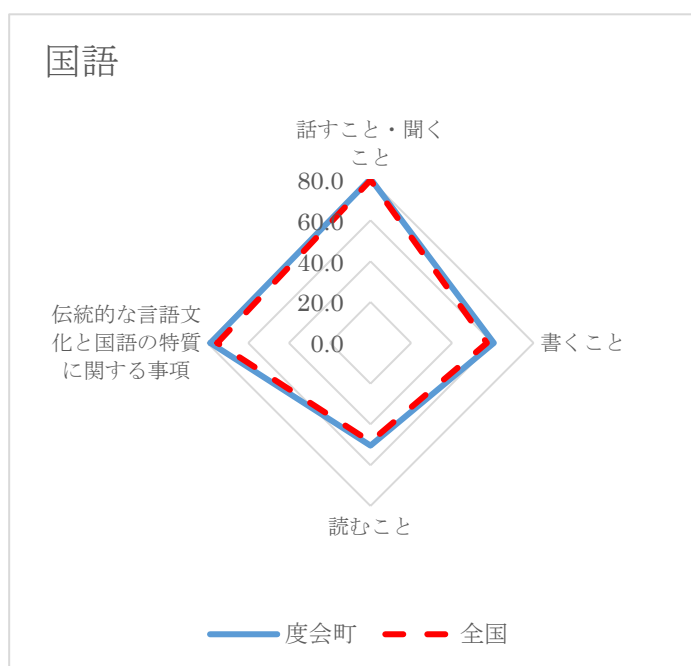


■全体的傾向と課題

- ・「算数の勉強は好きですか」「算数の授業内容はよくわかりますか」「算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか」という問いについて、①当てはまる ②どちらかといえば当てはまると回答した児童をあわせた割合が、三重県全国と比べて高くなっています。
- ・概ねすべての区分において正答率が全国平均よりも上回っていますが、直接公式を用いるために必要な情報が示されていない問題の理解については、課題があります。

(3) 中学校国語

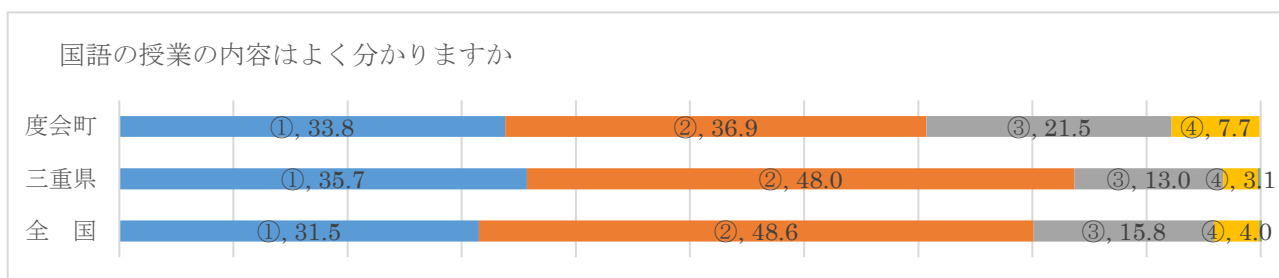
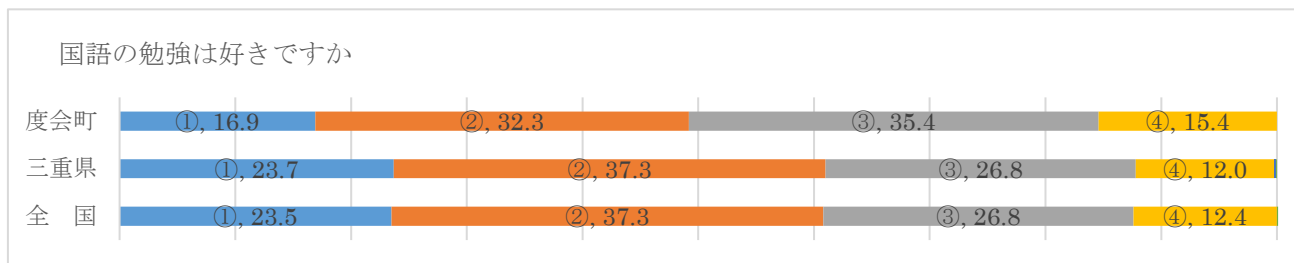
■領域別平均正答率の状況

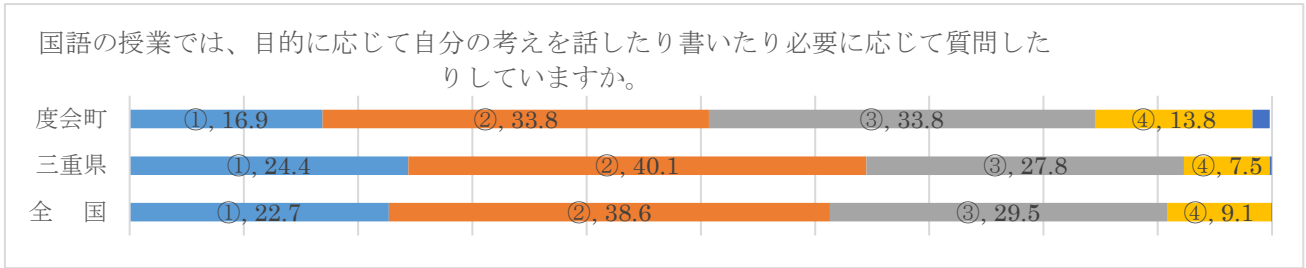


■調査問題結果からみる傾向

- 登場人物の言動の意味を考え内容を理解する力が身についています。
(町 81.5% 県 70.2% 全国 71.0%)
- 文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えを形成することに課題がみられます。
(町 12.3% 県 17.6% 全国 20.5%)
- 書いた文章を互いに読み合い、文章構成の工夫を考える力が身についています。
(町 83.1% 県 73.6% 全国 74.5%)
- 一般的に漢字を正しく読む力が身についています。()内は「伸ばして」の読みの結果
(町 98.5% 県 97.4% 全国 97.5%)

① 当てはまる ②どちらかといえば、当てはまる ③どちらかといえば、当てはまらない ④当てはまらない



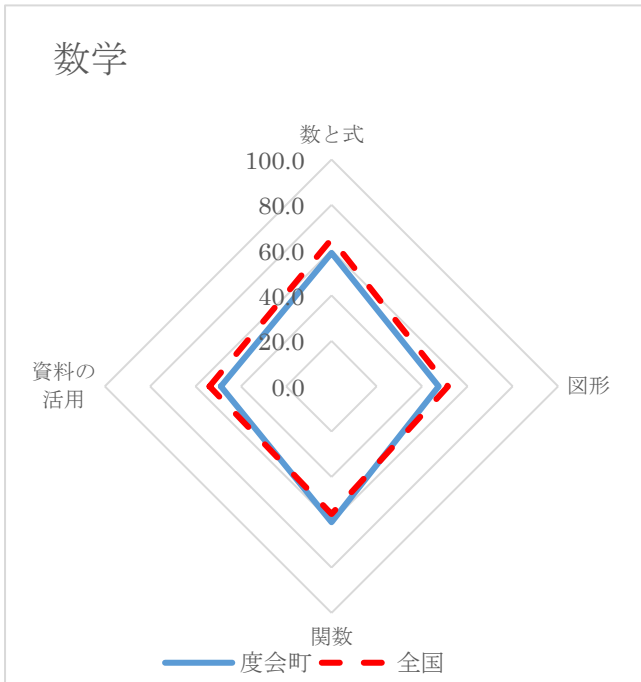


■全体的傾向と課題

- 概ねすべての区分において正答率が全国平均よりも上回っています。
- 語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書くこと、相手や場に応じて敬語を適切に使うことについては、課題がみられます。
- 「国語の勉強が好きですか」「国語の授業の内容についてよくわかりますか」「国語の授業では、目的に応じて自分の考えを話したり書いたり必要に応じて質問したりしていますか」という問いに対し、①当てはまる ②どちらかといえばあてはまる と回答した生徒を合わせた割合が、三重県全国と比べて低くなっています。

(4) 中学校数学

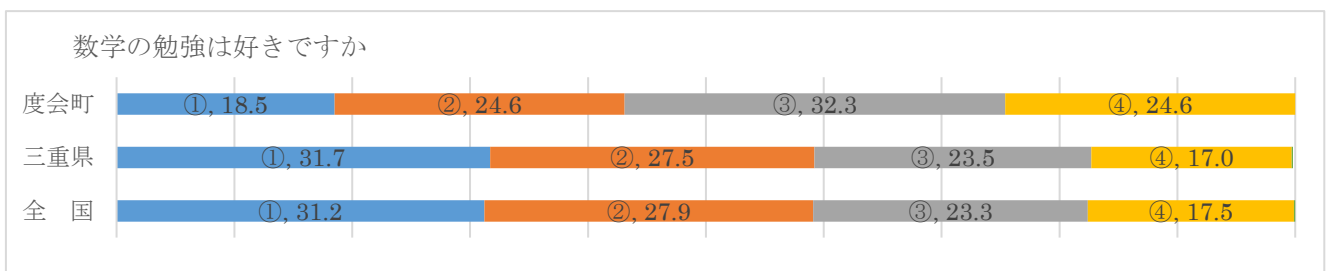
■領域別平均正答率の状況



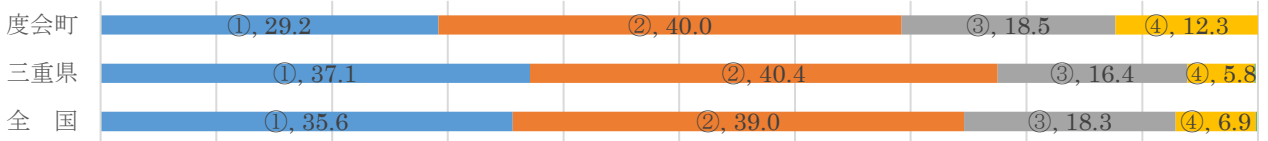
■調査問題結果からみる傾向

- 与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることにほとんど生徒が理解できています。
(町 93.8% 県 93.0% 全国 93.5%)
- データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することについて、課題がみられます。
(町 12.3% 県 11.0% 全国 11.1%)
- ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現することについて、課題がみられます。
(町 27.7% 県 27.9% 全国 28.8%)

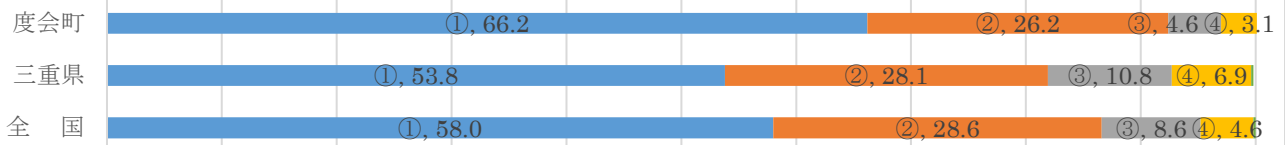
①当てはまる ②どちらかといえば、当てはまる ③どちらかといえば、当てはまらない ④当てはまらない



数学の授業の内容はよく分かりますか



数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いてますか



■全体的傾向と課題

- ・関数を除き正答率が全国平均を下回っています。数学的な見方や考え方について理解を深めること、また、それについて説明する力をつけていく必要があります。
- ・「数学の勉強が好きですか」「数学の授業の内容はよくわかりますか」という問いに対し、①当てはまる ②どちらかといえばあてはまる と回答した生徒をあわせた割合が、三重県全国と比べて低くなっています。
- ・「数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか」という問いに対し、①当てはまる ②どちらかといえばあてはまる と回答した生徒をあわせた割合が、三重県全国と比べて高くなっています。

(5) 各教科平均正答率の状況

<小学校> (%)

平均正答率	国語	算数
度会町	72	74
三重県	64	69
全国	64.7	70.2

<中学校> (%)

平均正答率	国語	算数
度会町	67	54
三重県	63	58
全国	64.6	57.2

3. 児童生徒質問紙調査の概要

児童生徒質問紙は、児童生徒の生活や学習の様子をアンケート形式で問う調査のことです。

生活の諸側面や豊かな心の育成に係わること、学習環境や授業等の教育活動等への問いがあります。各教科に関する質問紙調査結果については、2. 教科別概要でも掲載していますが、この項では、その他の本町の結果と特徴をまとめました。

なお、特別に記載のない質問項目については、「している」「どちらかと言えばしている」又は、「当てはまる」「どちらかと言えばあてはまる」と回答した割合の合計を記載しています。

【豊かな人間性】

(%)

質問項目		度会町	三重県	全国	対全国比
自分には良いところがあると思いますか	小	76.8	76.0	76.9	-0.1
	中	86.1	77.5	76.2	9.9
人が困っているときは、進んで助けていますか	小	94.2	90.1	88.7	5.5
	中	90.8	90.5	88.5	2.3
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか	小	82.6	71.5	70.9	11.7
	中	66.1	68.5	65.9	0.2

- ・多くの児童生徒が、「自分には良いところがある」、「困った人を助けたい」、「難しい事でも失敗を恐れなくて挑戦する」と回答しており、自己肯定感が高く、思いやりがあり、前向きに挑戦する力を持っています。

【学校生活】

(%)

質問項目		度会町	三重県	全国	対全国比
学校に行くのは楽しいと思いますか	小	84.1	83.2	83.4	0.7
	中	86.1	83.0	81.1	5.0
学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見の良さを生かして解決方法を決めていますか	小	85.5	70.0	73.4	12.1
	中	76.9	75.4	73.9	3.0
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	小	100.0	97.3	96.8	3.2
	中	97.0	96.3	95.9	1.1

- ・「学校に行くのは楽しい」と回答する児童生徒の割合が全国と比べ高くなっています。
- ・話し合い、相手の意見も尊重しながら問題解決をしていくクラスづくりができている児童生徒の割合が全国と比べ高くなっています。
- ・いじめは、どんな理由があってもいけないことだと考えている児童生徒の割合が全国と比べ高くなっています。中でも小学生は、すべての児童が「いじめはいけないことだ」と回答しています。

【家庭生活（生活習慣）】

(%)

質問項目		度会町	三重県	全国	対全国比
朝食を毎日食べていますか	小	97.1	95.1	94.9	2.2
	中	95.4	93.0	92.8	2.6
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	小	84.0	80.3	81.2	2.8
	中	78.4	79.2	79.8	-1.4
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	小	91.3	90.0	90.4	0.9
	中	95.4	92.2	92.7	2.7
携帯・スマホ・PCの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか ※1	小	60.9	67.1	70.1	-9.2
	中	57.0	67.9	67.9	-10.9

※1 「きちんと守っている」「だいたい守っている」と回答した割合を表内に記載

「約束はない」と回答：小学生町 14.5%（全国 11.8%）、中学生町 29.2%（全国 18.9%）、

「持っていない」と回答：小学生町 20.3%（全国 12.4%）中学生町 4.6%（全国 4.8%）

- ・多くの児童生徒が「早寝、早起き、朝ごはん」の規則正しい生活習慣が身についています。
- ・「携帯・スマホ・PCの使い方のルールを守ること」については、全国と比べて「守っている」と回答した児童生徒の割合が少なくなっています。小学生については、「持っていない」と回答した児童の割合が全国と比べ多い傾向にあります。

【家庭生活（学習習慣）】

(%)

質問項目		度会町	三重県	全国	対全国比
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか (良くしている、ときどきしている 回答割合)	小	86.9	72.8	74.0	12.9
	中	47.7	65.0	63.5	-15.8
平日、1日あたりの学習時間（塾・家庭教師等含む） (1時間以上と回答した割合)	小	79.7	59.6	62.5	17.2
	中	67.7	73.3	75.9	-8.2
休日、1日あたりの学習時間（塾・家庭教師等含む） (2時間以上と回答した割合)	小	23.1	23.5	29.7	-6.6
	中	35.4	45.0	53.5	-18.1
平日、1日あたりの読書時間（教科書や参考書、 漫画や雑誌は除く）（1時間以上と回答した割合）	小	24.6	17.4	18.2	6.4
	中	15.4	13.5	14.1	1.3

- ・「計画立てて家庭学習をしている」と回答した小学生は、全国と比べ高い割合となっています。
- ・中学生の家庭学習の時間が、全国と比べ少ない割合となっています。
- ・「平日に1時間以上読書をする」と回答した児童生徒は、全国と比べ高い割合となっています。

4. 今後の取り組みについて

小学校では、朝の学習時間を活用し、読書だけでなく、テーマを決めた教科の取り組みや定着しきれていない箇所の復習を行ったり、高学年では習熟度にあわせたクラス編成による授業を行ったりしています。課題プリントの反復練習による「やればできた」という気持ちや、授業での「わからなかったことがわかった」という気持ちを大切にし、子どもたちの達成感を積み重ね、できたことを承認することにより自己肯定感を高め、自らが積極的に課題に取り組むことを大切にしています。また、家庭での学びについては、「家庭学習の手引き」を作成し、ご家庭と連携した家庭学習の取り組みを行っています。

中学校では、今年度学習規律「W-S T Y L E（わたらいスタイル）」を定め、生徒自らが規律を守ることで相手を思い合い、お互いの学びを保障し高めあえるような環境づくりと、教職員の指導の統一化の徹底を図っており、きちんと整理整頓された教室に変化する等成果が現れはじめています。

更にこれからの時代に欠かせないICT機器を適切に活用することで、子どもたちの主体的・対話的で深い学びを実現させ、学力向上と誰ひとり取り残さない教育の充実を図ることを目指しています。一例として、全ての児童生徒がロイロノートに書き込むことで手を挙げて意見を発表しづらい児童生徒が意見を表現できた、図形コンテンツ等を利用することにより、子どもたちの興味関心を引き出すとともに、視覚的に捉えることができ、理解が深まったといった効果がみられています。また、中学校においては、9月の緊急事態措置期間中の臨時休校時にはオンライン授業を行い、すべての学年で顔の見える双方向で授業を実施しました。ICT機器の活用は、コロナ禍における学びの継続においても非常に重要なツールとなっています。

今回の調査で見えてきた子どもたちの学力や学習状況をふまえ、今後もこれらの取り組みを実施しながら、一小一中の強みを生かした9年間の取り組みができるよう、小学校、中学校、教育委員会委員会で更なる連携を図り、学習環境の充実に取り組んでいきます。

家庭や地域の皆さまには、今後も教育活動へのご理解・ご協力とともに、子どもたちの成長へのサポートをお願いします。